

令和3年度 さいたま市立大宮北中学校 学校関係者評価書

さいたま市立大宮北中学校

学校関係者評価委員長 吉田 弘一 印

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 6名

(2) 実施回数 2回 令和3年6月15日

令和4年2月17日(書面による意見交換)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- (1) 学校から説明いただいた学校評価のアンケートに関しては、生徒アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートともに概ね望ましい結果が得られていると考える。また、学校が生徒の実態を踏まえ、保護者・地域との連携を図りながら教育活動に取り組んでいることがわかった。
- (2) 一人1台タブレットの活用、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業、さいたま STEAMS 教育等の研究を進め、生徒の学力向上に努力している様子がわかった。一層、主体的に物事を解決する生徒の育成に向け取り組んでほしい。
- (3) 「いじめの防止」や「生活のきまり」など、生徒と教職員が一緒になって取り組んでいる様子がよくわかった。引き続き、生徒とともにいじめ防止に向けた取組を考え、また、生徒が楽しく、よりよい学校生活を送れるよう、取り組んでもらいたい。
- (4) 生徒指導・教育相談では、組織としてきめ細かい指導・支援を図っているが、生徒アンケートでは「不安や悩みを相談できている」の肯定的な回答が下がっているため、さらなる教育相談の充実を期待したい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

学校関係者評価委員会では、概ねよい評価をいただいた。また、学校評議委員及び学校運営準備委員会では、今後、生徒に身に付けてほしい力として、「自ら考える力」、「コミュニケーション力」が挙げられた。今後も、「さいたま市GIGAスクール構想」に基づいた一人1台タブレットパソコンを活用した授業の改善、「さいたま市STEAMS教育」等の研究及び実践を進め、学びの自律、個別最適化を図り、「自ら考える力」、「コミュニケーション力」等の育成を図っていききたい。

また、令和4年度から始まるコミュニティ・スクールでは、学校運営協議会等で熟議を重ね、学校運営の改善に努め、保護者、地域と連携・協働を図り、信頼される学校づくりを構築したいと考える

さいたま市立大宮北中学校長 富田 英雄 印